

## 令和5年度第2回安芸地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和6年1月26日（金）14:00～15:39

場所：安芸総合庁舎 2階 大会議室

出席：委員24名中、20名が出席（代理出席5名、兼務出席1含む）

議事：（1）第5期高知県産業振興計画の全体像（案）等について

（2）第5期高知県産業振興計画における安芸地域アクションプラン（案）について

（3）産業成長戦略について

観光振興の取り組みについて

（4）高知県元気な未来創造戦略の全体像（案）について

（5）その他

議事（1）～（5）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）  
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）第5期高知県産業振興計画の全体像（案）等について

意見交換等、特になし。

（2）第5期高知県産業振興計画における安芸地域アクションプラン（案）について

意見交換等、特になし。

（3）産業成長戦略について

観光振興の取り組みについて

（西邨委員）

再来年、NHKで連続テレビ小説「あんぱん」が始まる。物部川流域が舞台になるが、安芸地域にもごめん・なはり線が走っている。やなせたかしさんがキャラクターデザインを行ったごめん・なはり線の活用について、現在予定はあるか。

（観光政策課 鈴木課長）

やなせたかしさんが残したものが県内にたくさんある。例えば、高知の野菜11人きょうだいや、防災キャラクター、ごめん・なはり線では全ての駅にキャラクターがおり、色々な活用策が考えられるため、観光部門だけではなく、庁内で横断的に活用策を検討していこうと準備を進めている。

ごめん・なはり線のキャラクターの活用については、まだ具体的な案は出ていない。先日ごめん・なはり線の関係者にお聞きしたところ、絶好のチャンスであり、例えばJR四国と連携等も視野に入れて考えていきたいとおっしゃっていたので、県でもどのような活用ができるか検討していきたい。

（西邨委員）

安芸市でのサイクリングツーリズムについて説明があったが、東部の観光では二次交通が常

に課題となっている。例えば、ごめん・なはり線に自転車を乗せられる車両を作るといったことができる、ごめん・なはり線も活用でき、二次交通にもつながるのではないかと考える。機会があれば検討いただけるとありがたい。

(佐藤地域産業振興監)

ごめん・なはり線では、サイクルバッグで自転車を車両に乗せる取り組みは現在あるようなので、さらに活用が広がっていくように土佐くろしお鉄道と連携していく。また、安芸市も大山岬を中心にサイクリングツーリズムを検討しているので、一緒に取り組んでいきたい。

(嶋田委員)

龍馬パスポートの28万人のリピーターの方について、この28万人がどこを周遊されてるかエリア別や地域別のデータはあるか。

(観光政策課 鈴木課長)

データはあるが、28万人のうち何万人が安芸エリアで周遊しているかというのは今手元にない。龍馬パスポートが始まって10年ほどになるが、特徴として、初回訪問者は大体高知市を中心に周辺の観光地を回る傾向があり、2、3回目になると、幡多や安芸など周辺地域を周遊している傾向がある。このことから、リピーターを増やしていくことは、県内の各地域を回ってもらう取り組みにつながるのではないかとということが、龍馬パスポートのデータからも見て取れる。

#### (4) 高知県元気な未来創造戦略の全体像(案)について

(井上委員)

資料7の3ページ目について、県下で空き家・空き店舗が非常に社会問題になっており、安芸の中心商店街でも空き家率が20%、地域によれば30%に迫っている。空き家活用をしていかないと駄目だという中で、この資料にある「戦略の目指す姿」の「A若年人口の増加」に着目した。今、安芸市では移住者が増えており、商売されている方も徐々に増えてきている。前年度にも、徳島と高知市内の女性二人から、空き家・空き店舗を活用して安芸で商売をしたいという相談があった。

このような方々に商売をしていただけたら、「A若年人口の増加」の貴重な人材が入ってくることになる。現在、安芸商工会議所では空き家情報と貸店舗情報は大体把握できるが、希望者の方が、カフェをやりたいといった場合、どこの空き店舗でカフェが可能かどうかまでは把握していない。移住し、商売をしようとする方にとって一番大事なポイントになるので、深掘りした空き家・空き店舗調査も必要になってくる。このようなことも併せて、交付金の活用ができれば、安芸商工会議所としてもやりやすいと思うが、そういったことは可能か。

(計画推進課 西岡課長補佐)

この人口減少対策の交付金については、各市町村が取り組む、人口減少に資する取り組みに対して交付するもの。井上委員のおっしゃる取り組みを市町村が実施するのであれば、対象になると思うが、まだこの交付金の制度設計自体も検討しているところであり、先日市町村向けに説明会を開催したところである。今の意見等も参考にさせていただき、県として支援していけたらと思っている。

(嶋田委員)

「高知県元気な未来創造戦略の全体像(案)」の3ページ、政策3の「子供を生み、育てたい希望をかなえる」は、県内の若い方に、結婚して子供を生んでもらいたいというようにしか見えない。若いご夫婦や、母子家庭の家族が移住相談に来たとき、補償やサポート等、アピールできる子育て支援策はあるか。また、移住者を呼び込むための子育て支援はあるか。

(計画推進課 西岡課長補佐)

移住者に限定した話ではないが、「住民参加型の子育てしやすい地域づくり」の一例として、ファミリーサポートセンターの取り組みや、仕事と家庭の両立を支援する企業を認証し、その取り組みを支援する制度がある。

また、不妊治療への支援や、妊活中の方々を社会全体で支える機運を醸成していく取り組みも進めている。

(5) その他

意見交換等、特になし。

(以上)